



GunMaaS フリーチケット 発売 1 か月で 5 件のみ マイナカード連携より 乗合バス補助拡充を 特別委員会で酒井県議

交通次世代産業振興特別委員会で 12 月 11 日、酒井宏明県議は公共交通、特に乗り合いバスへの補助について質問しました。デマンドや乗り合いバスへの県の補助は、県全体では 78 事業者中 32 事業者、あわせて年間 1 億 3 千万円余です。特別委でも現地調査した前橋市の大胡宮城粕川地域を運行する「ふるさとバス」への補助は年間 290 万円にとどまっています(前橋市は 3000 万円以上補助)。酒井氏が補助を上乗せしてほしいという市町村の声にこたえよとの質問に、県は「要綱に基づいて実施している」と消極的な姿勢に終始しました。

また、今議会に提案された予算には、広域バス、主要路線バスの IC カードリーダーをマイナンバーカードに連携させるためのシステム構築に 3800 万円余を計上。前橋市民割などの行政サービスがワンタッチで自動精算できるといいますが、マイナカード先にありきの姿勢がみえみえです。

11 月から GunMaaS 上で販売を開始した、JR 東日本、上毛電鉄、日本中央バス 3 社によるフリーチケット。14 日間(JR 高崎・沼田間、新前橋・桐生間、上電全区間)乗り放題でおとな 1 万 2400 円。「群馬初の交通サブスク」と売り出していますが、これまでの実績は 5 件だけ。「事業者の主体的な取り組みなので数値目標はない」とのことですが、ターゲット(観光客なのか沿線住民なのか)も不明確で、利用範囲も期間も中途半端です。一方、ぐんまワンデーローカルパスは、1 日乗り放題でおとな 2370 円(JR・私鉄の県内全区間)。3 月から 12 月上旬までに 2251 枚発売とニーズが高いようです。

中小私鉄 3 社(上信・上電・わ鐵)の沿線地域交通リ・デザイン推進協議会が地域交通法に基づいて 10 月に設置されました。酒井氏は、利用者・住民の意見を十分反映させることや、県議会に対して随時、調査結果や協議内容を報告するよう求めました。県は、地域公共交通再構築調査事業(3 社の経営状況や利用実態、鉄道存廃の課題や効果などを詳細に検証)の中間報告が 12 月に出来る予定なので、来年 2 月の定例会で説明すると答弁しました。

自民党委員から「結論先にありきでなく十分な議論を」とくぎを刺す場面もありました。